

イチゴの生産性向上につながる適期定植を支援するための花芽検鏡を実施

鹿行農林事務所経営・普及部門では、銚田市内の生産者を対象にイチゴの花芽の分化・発達状況を確認する花芽検鏡を9月上旬から実施し、定植適期を示すとともに適切な管理指導をおこなっています。

イチゴは気温や日長時間、栄養状態によって花芽を形成する性質があり、その年における気象条件や生育状況の影響を強く受けることから、分化する時期は年によって異なります。

花芽が分化していない状態で定植すると、収穫開始時期が遅くなり、収益性の低下に繋がるリスクが高まることから、花芽検鏡を実施して適期に定植することが安定したイチゴ生産を行う上で重要となります。

本年度は頂果房の検鏡を約800点実施し、平年よりも気温が高く推移したため、花芽の分化は昨年同様に遅い傾向にあることから生産者は検鏡結果に基づき、定植日を遅らせるなどの対応をしています。

普及センターでは引き続き、イチゴの生産性向上につながる花芽検鏡等の必要な支援をとおして、イチゴ生産者の所得向上を目指していきます。

銚田地域農業改良普及センター（成長産業）